

本検討会のスケジュールと 第 1 回検討会の概要

本検討会のスケジュール（予定）

- 令和6年度内に3回開催して中間とりまとめを行い、その提言を交通政策審議会気象分科会へ報告。その後令和7年7月頃までに2回程度開催して最終とりまとめを行う。

第1回（令和6年9月4日）

- 検討会の開催趣旨について
- 台風情報の現状と課題について
- 検討課題と論点について

追加のヒアリングを実施
（航空、鉄道、農業、漁業、自治体の各分野）

第2回（令和7年1月8日）

- 台風情報の改善の方向性について

今回議論する内容

第3回（令和7年2月中旬頃）

- 台風情報の改善案について
- 台風情報の改善に関する中間とりまとめ案について

第4回（令和7年4月～5月頃）

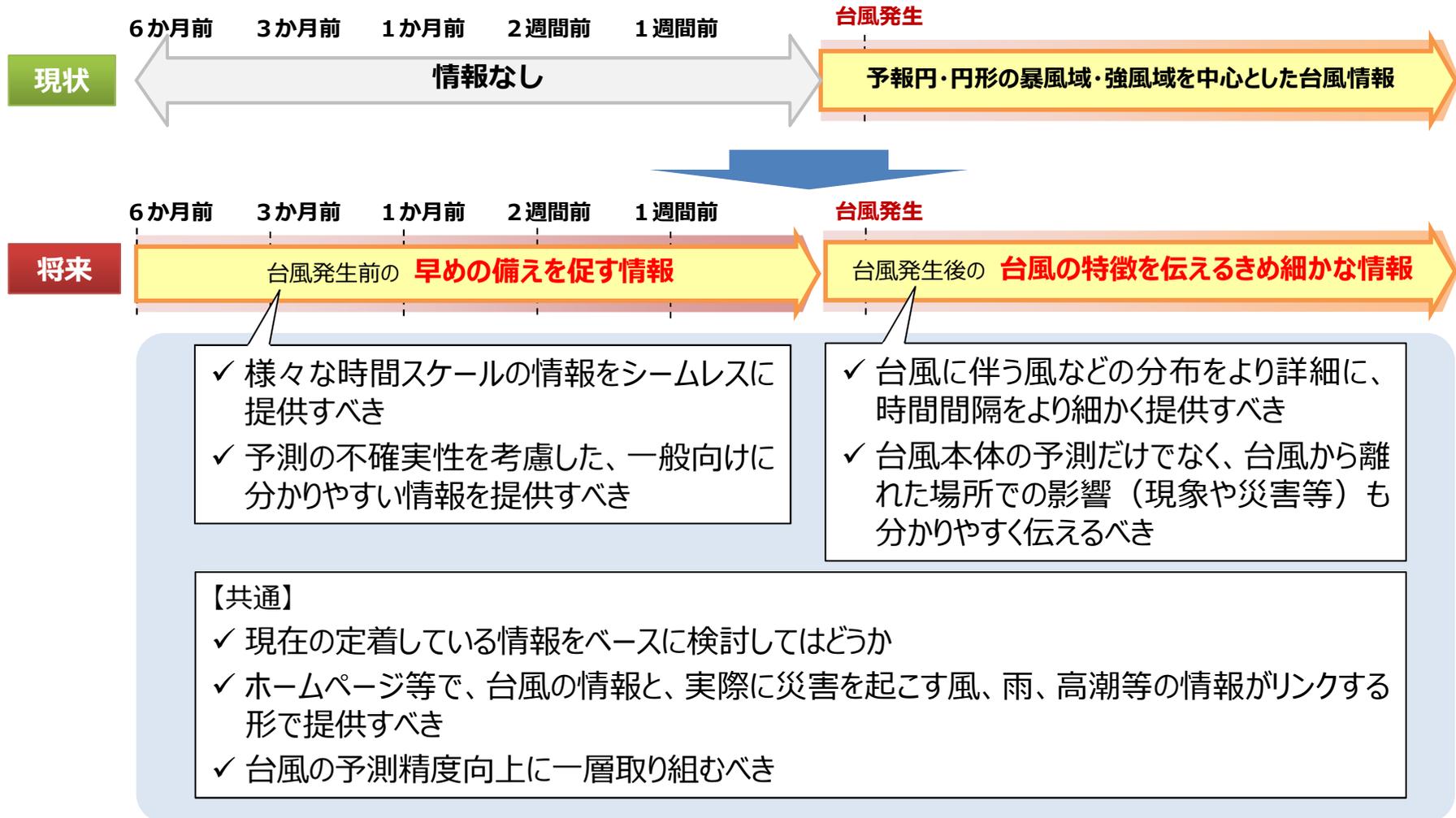
- 台風情報の改善の具体について
- 台風情報の解説強化や防災上の留意事項等について

第5回（令和7年6月～7月頃）

- 台風情報の改善に関する最終とりまとめ案について

第1回検討会における主なご意見（概要）

- 第1回検討会では、台風発生前の「早めの備えを促す情報」及び台風発生後の「台風の特徴を伝えるきめ細かな情報」のそれぞれの情報について、必要性や改善の方向性が示された。



◆ 今回（第2回）の検討会では、頂いたご意見を踏まえて、各情報の改善の方向性について議論を行う

第1回検討会におけるご意見（早めの備えを促す情報）

台風の発生や接近の見通し

ヒアリングでのご意見

- 精度の限界があることは認識しているが、リードタイムは長ければ長いほどよく、気象庁からも得られるとありがたい。【海運、建設、電気】
- 長期的な情報があれば平時から備えの意識も高まり、防災啓発の観点から使える。【保険】

委員からのご意見① 予測の時間スケールについて

- エルニーニョ現象（ENSO）やマッデン・ジュリアン振動（MJO）等の予測精度が向上しており数か月先の台風情報を提供することは可能ではないか。
- 6か月前からの情報は地域ごとではなく日本付近に存在する台風が平年より多いか少ないかという程度の情報になると思う。

委員からのご意見② 不確実性の扱いについて

- 1か月先までの情報は一般の方も今後の予定の計画等で我が事感を感じられるため、一般向けに分かりやすく提供できればよい。
- 早めの情報がどこまでの精度を担保できるものなのかという点が重要。精度が低過ぎる場合は社会活動へ悪影響を及ぼす懸念がある。一般の方については精度の低さや情報の扱い方についてしっかり認識してもらい、社会の混乱を招かないように情報提供する必要がある。

第1回検討会におけるご意見（台風の特徴を伝えるきめ細かな情報）

① 予報円と暴風警戒域

委員からのご意見

- 現行の予報円と暴風警戒域の表示方法は、ある意味で予報の誤差をうまく織り込んでおり、40年以上にわたって変わっていないため国民にも定着している。現行の情報を変えなければならないという前提に立つのではなく、現行の定着している情報をベースに検討してほしい。

② 予報の時間間隔

ヒアリングでのご意見

- 内航船では、運航の中止や運航先の港の決定を早くても2日程度前に検討する。より詳細な運航計画の策定のためには、予報の時間間隔が今より細かくなるとよい。【海運】
- 予報の時間間隔が今より細かくなれば、安全点検や、補強作業の開始・終了時間の検討に活用でき、作業の見通しを立てやすくなる。【建設、航空】
- 予報の時間間隔が今より細かくなれば、体制判断や、設備被害の発生時刻・発生場所の予想の精緻化につながる。【電気】

委員からのご意見

- 台風予報の時間間隔について、台風の動きが速く24時間先と48時間先の予報円の間には日本列島がある場合などでは危機感が薄れるため、36時間先など短い時間間隔も選べるとよい。
- 特に動きが遅い台風では、予報円が重なって日ごとの予報円が非常に分かりにくい。

第1回検討会におけるご意見（台風の特徴を伝えるきめ細かな情報）

③ 風の情報

ヒアリングでのご意見

- 作業判断や被害想定のため、風速や雨量の詳細な情報が必要。【建設、道路、物流、鉄道、電気、保険等】
- 現場によって吹きやすい風向が異なるため、海外気象機関の4象限の風分布情報は利用しやすい。【建設】

委員からのご意見

- 風の詳細な情報として4象限の情報は有効。強度予報の精度があまり向上していないが、数値予報の精度向上を進め、数値予報に基づく風の詳細な分布を出すことができるか、情報の出し方について検討を進めて欲しい。

④ 波浪・高潮の情報

ヒアリングでのご意見

- 船舶の運航にとって、風速だけでなく、風向・波高・波向・うねりの情報が重要。燃費には、それら気象海象の影響が大きく、船体動揺には、うねりが大きく影響する。航路を選択する際は、前広にそれらの情報があるとよい。【海運】
- 港湾では、高潮により貨物が流されることもあるため、地域ごとに詳細な高潮リスクが分かる情報が必要【港湾】
- 波浪の情報が48時間先までとなっており、作業船等の退避の判断には短いため、もう少し長い時間まで情報があるとありがたい。【建築】

委員からのご意見

- 気象庁HPの台風情報のページから波浪や高潮の情報にリンクされていないのが不便に感じる。実際に災害を起こす風、波浪、高潮、大雨の情報にリンクするボタンがあるとよい。また、キキクルのようにボタンで重ね表示ができれば分かりやすい。

⑤ 予報期間

委員からのご意見

- 7日先までなら誤差は大きいものの意味のある情報を出せるのではないか。

第1回検討会におけるご意見（共通）

委員からのご意見

- 台風情報は住民の警戒スイッチが入る重要な情報であり、詳細化や精度向上をお願いしたい。
- 新たな情報発信を検討する場合には、技術的に何ができるのかという点に加えて、社会がどう受け止めるかという点を考慮することが重要。個々の企業や自治体への個別最適も重要ではあるが、社会の全体最適という観点も含めて検討することが重要。
- 台風情報は気象庁が責任をもって発表すべき社会の基盤情報であり、基盤情報としてどのような情報が求められるのかという観点が重要。また、社会全体で共通認識を持つための情報とするために何が必要かという観点も情報の中身を考えるうえで重要。

第1回検討会におけるご意見（共通）

新たな台風情報の提供方法

ヒアリングでのご意見

（台風情報と雨や波浪・高潮等の情報の提供方法）

- 様々な情報が一つのウェブサイトなどにまとまっているとありがたい。【海運】

（暴風が吹く期間が分かる情報）

- 効率的な通行止めや空港運用のため、雨風の強まるタイミングだけでなく、収まるタイミングも情報として重要。【道路、航空】

委員からのご意見

（台風情報と雨や波浪・高潮等の情報の提供方法）

- 台風に伴う災害は、風に伴う暴風・波浪・高潮による災害もあるが、雨による災害も多い。風と雨の両方の情報がリンクして伝わるような情報提供の仕方がよい。
- リアルタイムの情報と一定の時間間隔をもった情報を並行して見せることができれば、即応性もあり、災害のスケール感も伝えることができる。

（温帯低気圧化後の情報）

- 温帯低気圧化すると情報がなくなり、危険性が変わらなくても安心感をもたらすことに繋がっているため、温帯低気圧化後の情報のあり方については検討が必要。

（暴風が吹く期間が分かる情報）

- 現代の日本社会は時間に着目し、時間による影響を大きく受ける社会でもあり、暴風到達時刻など、どの時間帯に注意すべきかが分かる情報は社会的にメリットがある。
- 風の予報はいつ・どこで強まるかイメージしづらい。例えば、米国の暴風到達時刻のように早ければいつから風が強まるかが分かる情報など、風の詳細な情報を提供できればよい。